

青森縣地誌略

松森豐編輯

全

特31

3

023306-000-3

特31-3

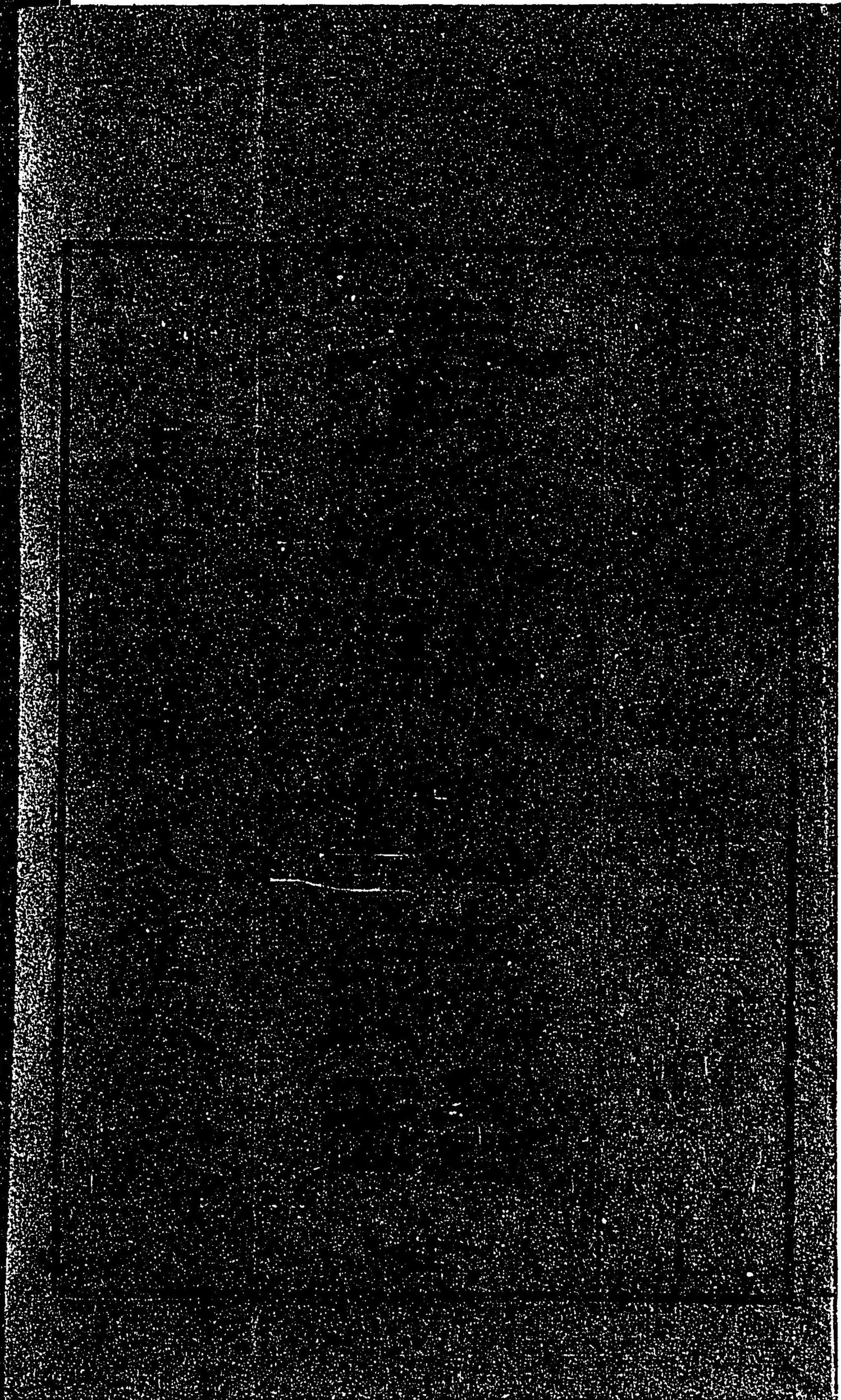
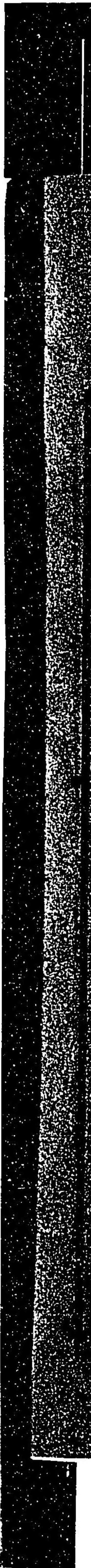
青森縣地誌略

松森 豐/編

M21

ADC-0187







No 9664

特31  
3



青森縣地誌略

總論

我が青森縣ハ、本洲の東北端にして、陸奥國中八都を管轄し、北緯四十度八分より起り、四十一度四分に至り、東經零度二十九分より二度十分一秒に至る。北ハ、一帯の海水を隔て、北海道渡島國と相對し、東ハ、太平洋に臨み、西ハ、日本海に濱し、東南ハ、岩手縣に接し、西南ハ、秋田縣に界す。地形恰も凹字狀にして、東西二角對出して内に一大灣を包む。之を陸奥灣と云ふ。面積凡



そ九百六十九方里あり。

全縣の人口五十二万七千二百餘戸數八万千三十餘戸にして地租納額ハ殆んど金四十六万圓に達すと云ふ。

山脈中央に起り支脈東西に分走して岩手秋田兩縣を界し本脈ハ直に南に馳せて本洲大山脈の起頭となる山の最高峻なるものを岩木ハ耕田の二山とし尾太山白神岳梵珠山ハ幡岳朝比奈岳名久井岳等是に次ぐ。

川の最大なるものを岩木川と云ひ奥入瀨川馬

淵川追良瀨川平川淺瀨石川等是に次げり。

縣下沿岸二百餘里岬灣の出入少からず尻矢崎ハ東隅に斗出し龍飛崎ハ北方に突出して北海道と相對し九艘泊角ハ平館角と共に陸奥灣の口を扼し夏泊崎中央より出で陸奥灣を青森野邊地の二大灣に分つ。

港ハ青森を首とし野邊地鱒ヶ澤鮫浦大湊等之に次ぐ。

温泉ハ縣下至る處に多し淺虫嶽の湯大鰐藏館温湯板留下風呂恐山等を有名なる者とす。

瀑布の大なるものを暗門の瀑とす、これに次ぐものハ、新穗瀧、鉦子の瀑、雌雄瀑、水晶瀑等なり、其小なるものに至りてハ、數ふるに違あらず。湖沼の大なるものハ、小川原沼、十三瀉、十和田湖、田光沼、鷹架沼、尾駮沼、姉沼等なり。

管内に、國道二線あり、函館、秋田の兩道これなり、函館道ハ、岩手縣下二戸郡釜澤村より、管下三戸郡上目時村簗ヶ坂に接續し、三戸、五戸、七戸、野邊地、小湊の諸邑を経て、青森港に達す、道程、大凡三十里あり、秋田道ハ、青森にて函館道に分れ、弘前

を経て、秋田縣下羽後國秋田郡長走村に接す、道程廿一里餘あり。

縣道十三線あり、即ち縣廳道、營所道、佐井道、脇野澤道、鮫道、小泊道、十三道、能代道、黒石道、久慈道、鹿角道、東海岸道これなり。

氣候ハ、各地ヤ、小異あれども、概ね寒暑共に酷しく、夏時、華氏の寒、暖計九十度以上に達し、冬時、二十度に下る、人民の生業ハ、耕作を専とし、牧畜、漁業之に次ぎ、養蠶、工商の業盛ならず、人情純朴にして、能く、家産を守れども、活潑勤勉の氣力に

乏し、學校ハ、尋常師範學校、尋常中學校、各一ありて、小學校五百五十四あり。  
教法ハ、神教、佛教を奉ずる者多く、神社八百三十五、寺院六百二十五ありて、耶蘇教未だ甚少し。  
物産ハ、穀類を第一とす、牛、馬、諸海産物、及び材木等之に次ぎ、其他塗物、蔬菜、果物等を産出す。  
此地、昔ハ磐城、岩代、陸前、陸中を併せて陸奥と稱し、一國五十四郡ありしが、明治元年分て五國と爲し、津輕、北、三戸、二戸の四郡のみ陸奥に屬せり、當時、本國にハ弘前、黒石、七戸、八戸の四藩ありし

が、同三年松平容保の子、容大斗南に封ぜらる、同四年に至りて藩を廢して縣を置き、一時弘前縣に合併せられしが、既にして、青森縣を置き、弘前縣を廢したり、同九年二戸郡の地を割きて、岩手縣に屬し、同十一年郡區改正の時、津輕郡を東西、中、南北の五郡に分ち、北郡を上下二郡に分ちたり。

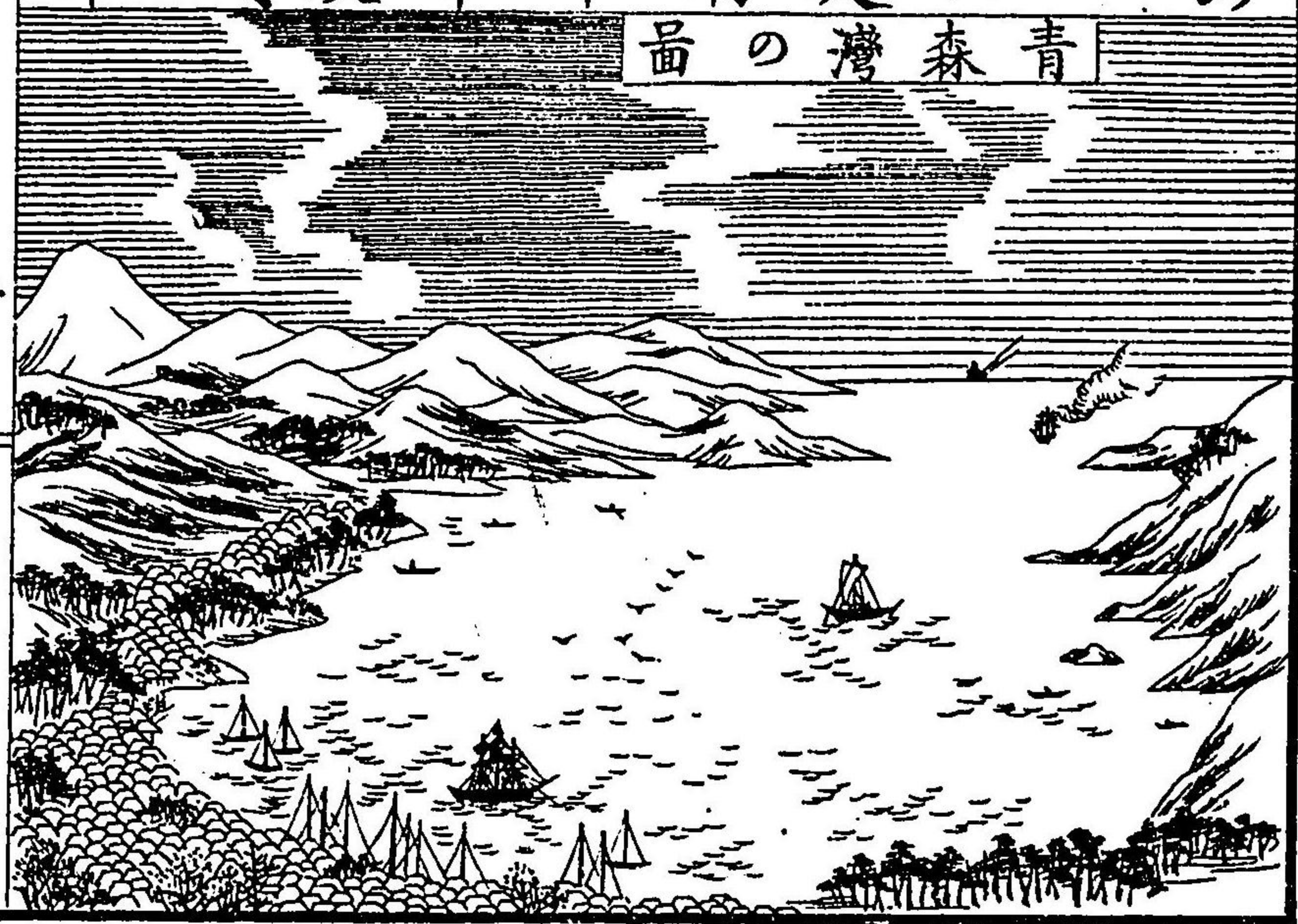
東津輕郡 面積百〇六方里  
人口六万一千餘

本郡ハ、東、上北郡に界し、南ハ、南津輕郡に接し、西ハ、北津輕郡に隣り、北ハ、一面海に濱す、地勢中間

ハ、平坦なれども東西南の三方ハ山岳多く、殊に  
 一帯の山脈其西北部に起りて、北方に連互し、北  
 津輕郡の地勢を限れり、其極端を龍飛崎と云ふ、  
 巉岩削立渡島の白神崎と相對し、潮勢極めて急  
 なり、これを中の潮と云ふ。  
 ハ甲田山ハ郡の東部にある高岳にして、上北郡  
 に跨り、烏帽子岳其北方に峙てり。  
 荒川ハ源を八甲田の山間より發し、北流して横  
 内駒込等の諸川を合せ、浦町村に至て堤川とな  
 り、青森の東を経て青森灣に注ぐ。

其他野内川、蟹田川等あ  
 れども皆細流なり。  
 青森ハ縣廳所在の地に  
 して、郡の中央に在り、堤  
 川東界をなし、田畝西南  
 に連り、北、海灣に面し、本  
 縣第一の良港にして、市  
 街繁盛、渡島の箱館へ渡  
 航するの要津たり、人口  
 凡そ一万二千七百餘、郡

青森灣の畝





役所、裁判所、警察署、病院、尋常師範學校、尋常中學校及び仙臺鎮臺に屬せる陸軍の營所あり。

油川ハ青森の西北に當り、灣水を隔て斜に相對する市邑にして、人口二千餘に蟹田、平館ヘイケン、今別イマビツ、三厩等の諸村あり、皆舊松前街道の宿驛にして、外ヶ濱に連れり、平館村の北方に平館角あり、三厩の近海に、鎧島、冑島等の小嶼あり。

小湊ハ國道の驛にして、人口一千三百餘あり、淺虫ハ有名の温泉場にして、青森の東三里餘の海濱に在り、湯島、鷗島、裸島、茂浦島モウラ等の島嶼、其前面

に羅列し、風光頗る佳なるを以て、浴客常に輻輳す。

物産ハ、米、粟、味噌、椎茸、鱈、鰻、煎海鼠、石決明、雲丹、昆布、酒、白酒、檜材、石材、鮎等なり。

西津輕郡 面積百六十二方里 人口五万六千二百餘

本郡ハ、當國の西部に在りて、南ハ、秋田縣の山本郡に接し、西ハ、日本海に臨み、北ハ、北津輕郡に連り、東ハ、中津輕郡に界す、地勢南北に廣くして、東西に狭し、西南の部ハ、山岳重疊海に接して起伏し、更に西方に斗出すること數里、其地角を艦作

崎と云ふ、東北部ハ概ね卑濕の平野にして、遠く十三瀉に達し、岩木川其東北をめぐりて、北津輕郡を限れり。

白神岳ハ、大間越村の東南、秋田縣山本郡の界に聳えて、岩木山、泊岳に連り、大鉢山、雌岳、雄岳等、其内に並峙せり、山脈南方海に盡くる所を、菅生スガフの崎サキと云ふ、即ち秋田縣の境界なり。

追良瀨川ハ、源を南方雌岳に發し、西北に屈曲して、追良瀨村に至り、海に入る、上流に四十八瀧あり。

赤石川ハ、源を泊岳に發して、北流し、赤石村に至りて、海に注ぐ、此他、笹内川、山田川、中村川等の細流あり。

田光沼ハ、下牛瀉村の東北にありて、北十三瀉と相通す、山田川其他、數多の小流、皆之に注ぐ。

十三瀉ハ、西端僅に海に通する大湖にして、周圍凡る六里あり、岩木川及田光沼等の下流之に入る、瀉の西北二十三村あり、人口、一千五百餘、此より、鱒ヶ澤に通する海濱を、七里長濱と云ひ、一條の沙路、絶て人烟なく、雪中の行旅、極めて險難の

地なり。

鰹ヶ澤ハ、郡の中央に在り、街衢海灣に沿ひ、一橋を隔て、東方舞戸村に連る、人口合せて六千七百餘、中に郡役所、裁判所、警察署等あり、津輕第二の要港なり。

深浦ハ、鰹ヶ澤の西南十里に在る小港にして、人口二千一百餘、灣内水深く波穩にして、碇泊に便をれども、灣口に暗礁あり。

木造ハ、郡の東部に在り、人口二千二百餘、本郡中の名邑なり、此地方ハ、炭薪に乏しく、其地に生ず

る泥炭を以て之に代ふ。

物産ハ、米、麥、大豆、鰯、鮓、鮎、蛇、蜆、檜材、泥炭等あり。

中津輕郡 面積九十四方里  
人口七万五千餘

東北ハ、南津輕、北津輕の二郡に連り、西ハ、西津輕郡に接し、南ハ、秋田縣に界す、地勢西南ハ、概ね峻をれども、東北ハ、平坦にして、田畝遠く開け、平川、南津輕郡の境を流れ、岩木川、其中間を貫けり、岩木山ハ、弘前の西に屹立せる高山にして、海面を抜くこと五千〇四十尺、其形、富士山に類するを以て、又津輕富士と云ふ、南麓に嶽及び湯段の

温泉あり。

泊岳ハ、西津輕郡と秋田縣下山本郡の界にありて、突坂尾太等の諸山其南に峙てり。

岩木川ハ、源を泊岳より發し、岩木山の溪流を合せて東北に流れ、弘前の西を経て南津輕郡の界に至り、平川と會いて一

弘前より岩木山を望む



大河となり、西北兩津輕郡の界をなす、又十川を合せて北流し、十三瀉に注ぐ、長凡そ二十一里、本縣第一の大河なり。

瀧の大なるものハ、暗門、新穂の兩瀧にして、暗門の瀧ハ、川原平村の山中にあり、飛泉三層に分れ、高さ各二十丈に下らず、實に、本郡第一の奇觀たり、新穂瀧ハ、田代村の山間に在り、高さ、十丈餘、隆冬に至れば、毎歲結て新穂の狀をなす、仍て此稱あり、土人、其形の大小を見て、年の豊凶を卜すと云ふ、二瀧の下流共に岩木川に入る。

岩木山神社ハ、岩木山の東腹百澤村にある國幣小社にして、殿堂門廡壯麗なり。

弘前ハ、舊弘前藩の城下にして、縣下屈指の都會なり、東西一里南北二十町餘、人口凡三万二千一百餘あり、市店軒を並へ、裁判所、警察署、電信局、學校、病院、郡役所等、皆備れり。

物産ハ、米、大豆、葱、里芋、牛蒡、銅、鉛、炭、生糸、藍、漆、蠟燭、売塗、漆器、竹細工等なり。

南津輕郡 面積八十一方里 人口七万三千五百餘

東ハ、上北郡及東津輕郡に界し、北ハ、北津輕郡に

接し、西北ハ、平川を以て中津輕郡に境し、南東ハ、秋田岩手の兩縣に隣す、地勢平坦にして、北方に開け、南東ハ、山岳屏列して、大小の川流其間より發し、地味肥沃にして、頗る米穀に富めり。  
櫛ヶ峰ハ、郡の東境に聳いて、上北郡に跨り、蘆唐嶽ハ、其南に峙ちて、岩手縣下鹿角郡に接し、山間に板留温湯等數多の温泉あり。  
甚吉森山ハ、碓ヶ關村の南に聳えて、秋田縣の秋田郡に跨る、其北麓を矢立峠と稱し、秋田街道中の峻坂なり。

阿闍羅山アケラの大鰐村オビの南に在る奇峰にして、其形卓子の如く、頂上平坦なり。

平川ヘイケン長七ナガシチハ、源を甚吉森山に發し、遠部津刈トウベツカリ等の

諸川を合せて、西北に流れ、藤崎村の北に至りて、岩木川に會す。

淺瀨石川センゼイシカハ長十ナガトウハ、源を櫛ヶ峰蘆唐の二山より發

し、西流して、沖浦板留及温湯等の諸村を經、黒石の南を流れ、藤崎村の南に至りて平川に入る。

黒石ハ、舊黒石藩の城下にして、弘前の東三里に在り、人口六千二百餘、土地高燥にして水清く、村

落四境に相接し、郡役所此地に在り。

藤崎村ハ、秋田街道の宿驛にして、弘前の東に接

し、人口凡そ二千七百餘あり、浪岡大釋迦の兩驛其東に連れり。

大鰐藏館及び碓ヶ關ハ、共に秋田街道に連る温泉場なり。

物産ハ、米を第一とし、其他蔬菜、果實、酒、味噌、湯波金、銀、砥石、炭、生糸、挽細工、蔓細工等を産す。

北津輕郡北津輕郡面積九十二方里、人口五万四千八百餘

東ハ、梵珠ヶ岳の山脈を以て東津輕に隣し、西ハ、

岩木川を以て西津輕郡と界し、南ハ、平野一帶南津輕郡に連り北ハ、日本海に臨む地形南北に長く東西に短し、土地平坦にして、田野遠く南北に開け、絶えて丘陵を見ず、中央以北ハ、卑濕にして、水害を蒙ること極めて多し。

梵珠ヶ岳及び大藏山の東津輕郡の境に峙てる高山なり。

五所川原村ハ、本郡中の名邑にして、西津輕郡の通路に當り、岩木川の東岸に在りて津輕北部の要地なり、人口、二千八百餘、郡役所、警察署、監獄署

等皆此地にあり、岩木川に架せる橋を乾橋と云ひ、長<sup>七十</sup>六間、五所川原村より青森の通路に七段坂の嶮あり。

板屋野木村ハ、五所川原村の南に連り人口、凡一千九百あり。

金木村ハ、五所原村の北方に隣れる大邑にして、人口、凡そ二千餘あり。

小泊村ハ、郡の北端に在る小港にして、北渡島國福山港と相對す、人口、凡二千四百餘あり、小泊村の西に小泊崎あり、一名を權現崎と云ふ。

物産ハ、米、大豆、麥、松茸、椎茸、鯉、鮭、乾鮑、酒、泥炭、麻、檜材等なり。

上北郡 面積百八十三方里

人口四万六千七百餘

東ハ、太平洋に面シ、西ハ、東津輕郡及び南津輕郡に界シ、南ハ、三戸郡に接シ、西南の一隅僅に岩手縣に隣リ、北ハ、一の地峽

薄山市より三十里を臨む畷



を以て下北郡に連れり此郡ハ、本縣中最も荒原多き地方にて、群山西境に重疊して、地勢東に傾き東、海岸に互て原野遠く開け、之を三本木野と云ふ、東西八里、南北三里餘、地味瘠薄にして耕種に適せず、唯、僅に萎草の生ずるのみなり。

高田大岳ハ、南津輕郡の境に峙てる高山にして、此より山脈南北に互り、其北に赴く者ハ、八幡岳、烏帽子岳の諸岳となり、南に走る者ハ、十和田の連山となる。

小川原沼 東西一里半、南北四里半ハ、三本木野の東端にあり



て、下流東北に走りて海に入る。

十和田湖 東西三里半 南北二里半ハ、奥瀬村の西九里餘の山

中に在り、高山四邊を圍み、山水殊に明媚なり、湖

形東隅に窄く、奔湍突下して大瀑布をなす、奥入

瀬川の水源となる。

奥入瀬川又相坂川と云ふ、東流して三本水野の

南を經、百石村に至りて海に入る。

天間館川 一名ハ、七戸川と共に、源を西境の連山

より發し、上野村に至りて相會し、小川原沼に入

る。

牧場の重なる者を、谷地頭牧場、百石淋代牧場、同上

雲雀牧場、有戸表館牧場、尾駸大平牧場、龍澤とす。

野邊地ハ、内海に濱する良港にして、富商豪戸多

し、人口、凡そ四千四百餘、東方の丘陵に公園地あ

りて、結構宜しきを盡くし、眺望絶だ佳なり。

野邊地以北ハ、即ち田名部街道にして、一路丘陵

に傍ふて通し、人家稀にして、行旅に難む、有戸、横

濱ハ、其重なる村落なり。

七戸ハ、舊七戸藩の城下にして、本郡の中央に位

せる、小市街なり、人口、凡そ二千五百餘、郡役所警

察署等在り、北方、野邊地  
との中間に坪村あり、坪  
碑の古跡ありと傳ふれ  
ども未だ詳ならず。  
三本木村ハ、七戸の南荒  
原中にある一村にして、  
安政二年今を去るこ新  
戸部某の創る所なり、人  
口、一千三百餘あり。  
物産ハ、牛馬を以て第一

三本木の畠



と、其他大豆、小豆、蕎麥、蕨粉、鰯、鱈、鮫、鮭、鱒、鰻、北寄  
貝、鶏卵等なり。

下北郡 面積百二十一方里  
人口二万五千一百餘

本郡ハ、東北海上に斗出せる半島にして、東西北  
の三面ハ海を受け、南方僅に上北郡に連て地峽  
をなせり、地形西北に屈折して海水を抱き、上北  
郡及び東津輕郡と相扼して巴の字形をなせり、  
内部ハ、嶺重り谷深くして人の住居に適せず、唯  
沿岸に人烟を見るのみ。

朝比奈岳ハ、本郡第一の高山にして中央に聳え

山脈殆と半島の全部に互れり、荒澤、縫道石等の諸山ハ、其連脈中に在りて、其西に盡る處ハ、即ち九艘泊の岬角なり。

釜伏山ハ、内海に接して起り、其山北に温泉あり、之を恐山と云ふ、山中に同名の湖水ありて、大盡、小盡等の諸山湖の四方に峙てり。

田名部川長七里餘ハ、源を砂子又村の山間より發して西流し、田名部村を貫きて、大湊の灣に注ぐ、大畑川長八里餘ハ、朝比奈嶽の山脈中より出で、東北に趣き、溪間の衆流を併せ、大畑村に至りて直に

海に入る

川内川長七里餘ニ源あり、一ハ福浦澤より發し、一ハ三九郎山より發す、二水畑村に會して一となり、南流して川内村に至りて海に注ぐ

尻屋崎一名藤石崎ハ、東北海中に斗出すること二里、餘渡島の恵山エサシ岬と相對す、此邊暗礁多く、且海霧常に深きを以て燈臺の設置あり

牧場の重なるものを、大室牧場オホムロ、田名部村幌川牧場ホウカ、内川村白砂牧場オシロとす。

田名部ハ本郡中の一大邑にして、半島の要地を

占む、維新の始、斗南藩移住の際藩廳を此地に設  
けたり、人口、凡そ二千四百餘、郡役所、警察署、病院  
等あり、本邑に對する大村を大畑村、川内村と、  
之を田名部の三町と稱す。

大畑村ハ、田名部の北方四里に在りて、人口、一千  
九百餘、山間に温泉あり、藥研ヤクケンと云ふ。

川内村ハ、田名部を距る六里餘の西に在りて、内  
海に濱す、人口、凡そ一千八百餘、此地材木に富み  
且運送の便宜、山間に温泉あり、湯野川と云ふ。  
大湊ハ、内海中の一小灣にして、田名部の西に隣

し、釜伏山の麓に列る本  
郡第一の良港とす。

脇野澤ハ、川内の西にあ  
り、亦内海中の一小港に  
して、海を隔て、青森と  
相對す。

下風呂シモフハ、大畑の西北に  
在る温泉場なり。

大間、佐井ハ、共に半島の  
西北岸に在り、其先松前

大湊の景



の渡口にして、稍繁盛なりと雖とも、今ハ甚だ衰替せり、此より南西の海岸ハ、巉岩相連り、道路極めて嶮岨にして、天蓋石の崎、佛歌燒山崎等の勝地あり。

物産ハ、檜材、杉材、馬、牛、鮫、干鮑、海參、昆布、惠胡草、海苔、煎海鼠、鰯、蛤蜊、若布、硫黄、百合等なり。

三戸郡 面積百二十七方里  
人口九万一千六百餘

東ハ太平洋に面し、北ハ上北郡に隣り、西南ハ岩手縣に界す、西南ハ山岳重なりて、地勢高峻なれとも東北に至て漸く開け、内部ハ丘陵起伏して

數派の溪流之を縦横に貫流せり、氣候他郡に比すれハ較温暖なり。

戸來嶽尖岳ハ、共に五戸の西に峙てる高山なり、其北方、上北郡の界に三嶽あり。

來滿山ハ、三戸の西にあり、秋田縣の鹿角郡に跨れり。

名久井岳ハ、三戸の東に屹立せる高山にして、四方より之を望むも其山容を同うす、故に又四方岳の稱あり。

階上嶽 一名種山ハ八戸の南に延互して、岩手縣の

九戸郡を限れり。

馬淵川ハ、岩手縣二戸郡より來り、野澤、猿邊、熊原の諸川を併せ、八戸の北を経て海に入る。縣下第二の大河にして、下流七八里の間舟筏を通すべし。市川長十里餘ハ、尖岳より發し東流して五戸を過ぎ、下市川村の海に注ぐ。

新井田川長六里餘ハ、岩手縣九戸郡より來り、階上岳より出る溪流を併せ、新井田村及び湊村を経て、馬淵川と同トく海に入る。

牧場の重なる者を、小國牧場田子村、戸來牧場戸來村

とす。

八戸ハ、舊八戸藩の城下にして市街繁華、商戸軒を列ね、人口凡そ一万〇三百餘、郡役所、裁判所、警察署、病院等あり、此地東に鮫、湊の兩港を控へ、運輸極めて便なり。湊ハ八戸の東一里にあり、小中野村、湊川の一橋



を隔て、西に連れり、人口併せて、四千七百餘あり。  
鮫ハ、西湊を距る一里、海角の東北端に在り、蕪島、其北面を擁するを以て碇泊に宜し。  
五戸ハ、八戸の西北にある小繁華の地なり、人口凡そ三千七百餘、其南に淺水驛あり。  
三戸ハ、五戸の南に在る小市街にて、南部氏基業の地たるを以て城墟、今尚其東に巍然たり、南金田一驛の間に叢ヶ坂の嶮あり。  
物産ハ、米、大豆、麥、蕎麥、鱒、鱒、鱈、鱈、北寄貝、乾鮑、烟草

等なり

青森縣地誌略 終

明治廿年九月廿二日版權免許  
全 廿一年三月廿一日印行  
全 年四月廿一日出版

編輯兼  
發行人

青森縣平民

松 森 豐

陸奥國青森米町百十四番地

東京日本橋區久松町十五番地

原田庄左衛門

賣捌人

全下谷區阪本村二十一番地

安井臺助

印行者



